

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

# 縣報

第七百九十四號

明治四十一年八月十二日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣令第五十二號

明治四十一年七月縣令第三十號獸疫豫防令中「大坂府西成郡」ノ次へ左ノ通追加ス

明治四十一年八月十二日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

- 一 東京府 東京市
- 一 兵庫縣 神戸市
- 一 奈良縣 南葛城郡、北葛城郡

縣報第七百九十四號 明治四十一年八月十二日 第三種郵便物認可

縣報第七百九十四號

明治四十二年八月十二日

第三種郵便物認可

○和峯山縣告示第二百四十四號

有田郡箕島町大字北湊六百十一番地  
開業產婆

右今般死亡ノ旨ヲ以テ取清願出ニ依リ本日和歌山縣產婆名簿ノ存録ヲ取消ス

明治四十一年八月十二日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

○通牒照會

內五第三〇二四號一

通牒

明治四十一年八月十二日

內務部長 佐藤孝三郎

郡市 長殿

町村 役場御中

第六回日本大博覽會事務局通信課發行雜誌ニ關スル儀ニ付左記通牒候也  
一 全會ニ關スル各般ノ施設事項ニ付テハ全事務局ニ於テ計畫シ又ハ實行ニ係ルモノハ勿論各地方

ニ於テ官民ノ計畫シ又ハ施設スルモノニ付テモ事細大トナク之ヲ一機關ニ取纏メ一括シテ内外  
ニ周知セシムルコトハ全博覽會事業ノ經營上頗ル緊要ノコトニ屬スルヲ以テ全局ニ於テハ夙ニ  
此方針ニ基キ右周知ニ關スル事務ヲ管掌セシムル爲從來開設ノ內國博覽會ニ比レ一新計畫ヲ立  
テ事務局內ニ通信課ヲ設置シ爾來周知ノ方法ニ關シ種々調査計畫中ノ處不取敢右ノ目的ヲ遂行

スル手段ノ一トシテ近ク全局ニ於テ一雜誌ヲ發行シ廣ク預布スルノ趣旨ヲ以テ目下其ノ方法ニ着手スルニ付爾今日本大博覽會ニ關シ官民ノ計畫施設ニ係ル事項ニ付テハ事細大トナク時々報道スル様全會長ヨリ照會越シノ次第モ有之ニ付テハ該當ノ事項有之場合ハ迅速ニ全局ニ通報スル様精々御配慮相成度

ニ右ハ直接全局ニ通報シ妨ナキモ其ノ場合ハ全時ニ當廳ヘモ通報スルヲ要ス

右

内五第三〇〇九號

通知

明治四十一年八月十二日

内務部長 佐藤孝三郎

郡 市長殿

町 村役場御中

清國安東ニ輸入セラル、日本色染金布ニ對スル課税ノ儀ニ付左記通知候也

從來清國安東ニ輸入セラル、幅十五吋長十二碼迄ノ日本色染金布ハ幅三十六吋長四十三碼ヲ超ヘサルモノト同様ノ輸入税ヲ賦課セラレタル處今般右ヲ裏地トシテ雜綿布中ニ分類シ五分ノ從價稅ヲ課スルコト、相成リ去ル六月二十日付ヲ以テ同地稅關長ヨリ告示有之候趣同地駐在帝國領事ヨリ報告越ノ旨ヲ以テ商工局長ヨリ通知ノ次第モ有之候條御部内當業者ニ周知セシメラレ度

右

○懲戒

○官吏懲戒

明治四十一年八月十日

和歌山警察署勤務 警部 金川 誠之

明治四十一年七月五日宿直勤務中違犯罪拘留囚川島常楠ヲ逃走セシメタルハ看守巡查ノ不注意ニ  
 アリト雖モ畢竟監督ノ周到ヲ缺キタルノ結果ニシテ職務ヲ怠リタルモノトス仍テ文官懲戒令ニ依  
 リ譴責ス

○觀測

明治四十一年八月七日ヨリ三日間當地氣象概況(前年對照)

種目	八月七日		八月八日		八月九日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七五五耗六	七四〇耗八	七五五耗六	七四六耗一	七五六耗六	七五三耗一
平均氣溫	二五度〇	二五度〇	二六度九	二五度二	二七度二	二六度三
最高氣溫	二六度九	二七度〇	三〇度九	三〇度五	三〇度四	三一度七
最低氣溫	二三度一	二二度六	二三度〇	二〇度一	二三度六	二三度五
最多風向	東	北東	東	南西	東	南西
平均風力	一米九	五米二	二米七	三米五	二米一	三米一

明治三十三年五月八日第三種郵便物認可

縣報第七百九十四號

明治四十一年八月十二日

第三種郵便物認可

六終

天氣	雨量	記事現象
雨又曇	二二耗一	終日時々降雨 正午前及后雷鳴
雨	二五耗一	終々降雨 夕刻北方ノ強風吹ク
半晴微雨	〇耗〇	午后微雨 夜間南西ニ電光
晴	〇耗〇	午后東北東ニ雷鳴 夜間微雨
半晴	〇耗八	午前十時沿海ノ警戒ヲ解除ス 夜間雷雨
晴驟雨	〇耗五	早晚及午后驟雨

(每月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

明治四十一年八月十一日印刷

(賣代價)

和歌山縣

和歌山市久保町一丁目一番地  
印刷人 友次郎